

編集後記

大変遅くなりましたが、Vol. 14, No. 2を発刊いたします。Vol. 15からは電子媒体で発刊することにし、冊子体は総説を中心に数年に1回発刊する方針で考えています。

さて飯泉様の巻頭言にありますように、2014年度の大会は、日本微生物生態学会、日本土壤微生物学会、環境バイオテクノロジー学会が主催し、日本菌学会、極限環境生物学会、日本ゲノム微生物学会が協賛する合同大会「環境微生物系学会合同大会2014」として、本誌編集委員長の金原が実行委員会委員長として、浜松で開催いたしました。会員の皆様方のご協力の下、800名以上の方々が全国から参加し、大成功を収めたものと自負しております。あいにく研究発表の詳細を聞くことはできませんでしたが、今後の環境バイオテクノロジー研究の大きな発展につながるものとなったと確信しています。

さて、環境バイオテクノロジー学会は、1999年7月に設立されて今年で16年になります。本学会は1995年に設立された環境バイオテクノロジー研究会が出発点ですが、1993年に設立された*Pseudomonas*研究会が源流になります。当時金原は長岡技術科学大学に在籍していて、亡くなられた矢野圭司教授のもと1995年につくばで開催した第5回*Pseudomonas*国際シンポジウムの国内準備組織として、*Pseudomonas*研究会結成のお手伝いをしました。*Pseudomonas*研究会会誌を手作りで編集し、会員の方々にお送りしていました。当時の会誌を広げながらこの文章を書いています。20年前も今と同じように、特集を編集し、会員の皆様に、会員の拡大と良い企画の募集をするなど、環境バイオテクノロジー分野の研究の発展を祈りながら編集後記を書いていました。時がたち、周囲の状況が変わっても、我々の志は変わりませません。

本会誌は今後電子媒体となりますが、会員の皆様のご協力の下、より良い雑誌にしたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

環境バイオテクノロジー学会誌編集委員長 金原和秀